

父と子の激痛

シリーズ～終末を生きる～

2018/3/25 受難週

十字架までのみちのり

- 日曜日
 - 子ロバの背に揺られてエルサレムへ
 - エルサレムを見て慟哭される(ルカ19章)
- 月曜日?
 - 宮清め
- 月～木曜日
 - 最後の教え(終末の予言など)
- 水曜日
 - ベタニヤで香油を注がれる

十字架前夜(木曜日)

- 最後の晩餐(過越の食事)
 - イスカリオテ・ユダの裏切り
 - ペトロのつまずきの予告
- ゲツセマネの祈り
 - 「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」(マタイ26:39)
 - 捕えられる
- 祭司長たちと最高法院による裁判
 - 偽証人は現れるが死刑にする証拠はない
 - ペトロ、イエス様を知らないと言う

十字架当日

- ユダの自殺
- ピラトによる裁判(1回目)
 - 「ガリラヤ人」だと聞いてヘロデに送る(ルカ23)
- ヘロデによる尋問
 - 侮辱してピラトに送り返す
- ピラトによる裁判(2回目)
 - バラバ(暴動と殺人)を引き出し、イエス様を釈放しようとする
 - 群衆の要求に押され、十字架刑を決定する

マタイ福音書27章35～38,45～46節

彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、そこに座って見張りをしていた。イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。

…さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

全く罪のない方が十字架にかけられた

- わたしたちの身代わりになるため
 - 「わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。」イザヤ53:6
 - 「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。」コリント二5:21
- 人となられた神の子が罪を背負われた
 - 神は「ご自分を裁かれた」と言える

子(なる神)の激痛

- 肉体的激痛
 - 人間が考えた最も残酷な死刑である十字架刑
- 精神的激痛
 - 「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。」27:42
- 霊的激痛
 - 罪の塊となったために、父(なる神)に見捨てられる(「父」を「わが神」と呼ばれた!)
 - 世界でたった一人神に見捨てられた方!

父(なる神)の激痛

- 愛するわが子を見殺しにする痛み
 - そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。3:17
- 全能の父が、何もせず見つめる痛み
 - 心を引き裂かれるような苦しみ
- 「父と子」という表現
 - わが子の苦しむ姿ほど苦しいものはない
 - 人間でさえ、わが子のためならばどんな犠牲も苦痛もいとわないのだから

何のために父と子は痛まれたのか

- 罪の重さをわたしたちに分からせるため
 - 罪の報いは神との断絶
- わたしたちの苦しみを神御自身が味わわれるため
 - 神は人間の苦しみを黙って見過ごしているのではない
- 痛みによってわたしたちと寄り添うため
 - 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。1:23